

# 営農情報

## 6月の水稲管理

令和4年6月発行

高島地域農業センター

高島農業農村振興事務所農産普及課

J Aレーク滋賀 今津営農経済センター

安曇川営農経済センター

### 1. 水稲の生育状況

5月上旬は強風の日が多く、その時期に移植されたほ場では植え傷みがひどく活着は遅れました。移植後も低温と日照不足により、稲の生育は停滞しました。その後、5月下旬の高温・多照により生育は回復しつつありましたが、藻の発生と6月上旬の低温で再び生育は停滞し茎数は少ない状況が続いています。

また、還元害は5月下旬から発生し始め、対策を講じられていないほ場では被害が著しい場所も見られます。

### ～水稲の管理のポイント～

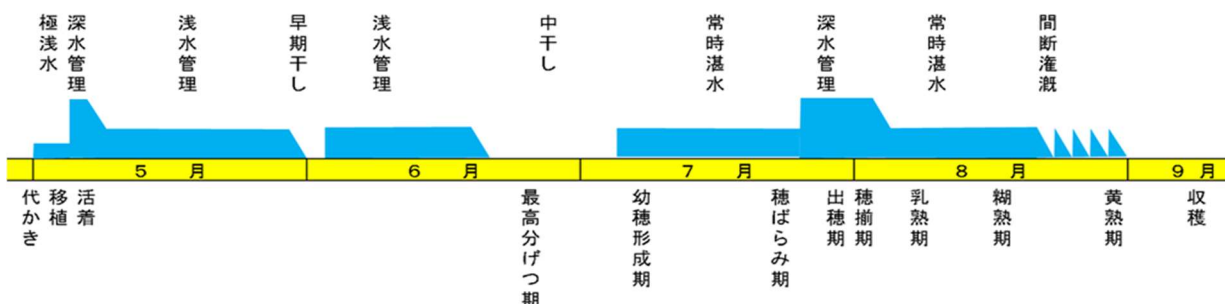
- ① 浅水（水深3cm）管理と中干しで、生育量を確保しましょう。
- ② 置き苗は、葉もちの主要な伝染源となるため、早急に処分しましょう。
- ③ 追肥は、品種ごとに適期・適量を施用しましょう。

### 2. 水の管理

- (1) まだ株張りのとれていないほ場は浅水（3cm程度）とします。株張りが確保できたら、中干しを行います。
- (2) 還元害を起こしていると思われるほ場では、軽く干して土壌中に酸素供給を行います。除草剤散布後で干せない場合は、硫黄を含んだ石膏資材「畑のカルシウム」等を施用し、根の健全化に努めましょう。
- (3) 中干しは強制落水せず、自然減水でおこないましょう。
- (4) 水管理が短時間でほ場全体にできるように、中干し前に「溝切り」を行います。『（ご注意）環境保全型農業直接支払交付金の⑧IPMや⑩緩効性肥料+長期中干しに取り組んでおられる方は、原則10aあたり1本以上の溝切りと、14日以上の中干しが必要です』
- (5) 中干し後は、間断かんがいをを行います。

#### ▼（中干し開始時期の一株当たりの茎の数の目安）▼

70株植→14～15本/株、60株植→17～18本/株、50株植→20～21本/株  
（5月上～中旬植→茎数が確保できたら中干し開始 5月下旬植→6/20頃）



## 中干しの効果

- ① 無効分げつの発生を抑制し、根の張りがよくなります。また、倒伏に強くなり、米粒の充実度や品質もよくなります。
- ② 地耐力を高め、収穫時のほ場の荒れが緩和します。

## 3. 追肥

### (1) 全量基肥体系(一発肥料体系)栽培

全量基肥体系栽培の場合は、基本的に追肥の必要はありませんが、移植から1ヶ月後の茎数が10本に満たない場合は窒素2kg/10aを施用しましょう。

### (2) 分施体系栽培

#### ① 5月中旬までの移植

早生品種(コシヒカリ・キヌヒカリ)の追肥時期は6月上中旬です。

中生・晩生品種(秋の詩、滋賀羽二重糯等)の追肥時期は6月中下旬です。

#### ② 5月20日以降の移植

原則として追肥は施用しません。

#### ③ 毎年過繁茂となるほ場では、施用量を見直しましょう。

## 4. 葉いもち対策

- ① 置き苗は「いもち病」の伝染源となります。早急に土中に埋没などして処分しましょう。
- ② 7月には葉いもちが発生しやすくなります。ほ場を見回り、見つけたら防除しましょう。



## 5. 稲作現地研修会のご案内

下記日程で稲作現地研修会を開催致しますのでご参加下さい。

マキノ地区	6月28日	午前10時～	【マキノCE】
今津地区	6月28日	午後1時30分～	【今津営農経済センター】
今津地区	6月28日	午後3時30分～	【岸脇 芳岳院北西】
安曇川地区	6月29日	午前9時～	【横江低温倉庫】
高島地区	6月29日	午前11時～	【高島B&G前】
朽木地区	6月29日	午後1時30分～	【麻生 集会所前】
〃	6月29日	午後3時30分～	【岩瀬 興聖寺下駐車場】
新旭地区	7月1日	午前9時～	【新旭北CE】
〃	7月1日	午前11時～	【新旭南CE】
安曇川地区	7月1日	午後1時30分～	【三尾里作業所】
高島地区	7月1日	午後3時30分～	【高島CE】

### お問い合わせ

JA レーク滋賀 今津営農経済センター	22-4545
マキノ支店	27-1193
新旭支店	25-2628
安曇川営農経済センター	32-1260
朽木事業所	38-2326